

2023年11月6日

2024年3月期第2四半期 決算短信補足資料



証券コード：4886

あすか製薬ホールディングス株式会社

ハイライト

2024年3月期 第2四半期連結決算

売上高

- ✓ **316億円、前同比4.9%増加**
医療用医薬品事業が堅調に推移し、過去最高の売上高を更新。

売上原価

- ✓ **164億円、売上原価率 前同比0.6ポイント改善**
先発医薬品である「レルミナ」「チラーヂン」「リフキシマ」の伸長による製品ミックス改善。

販売費及び 一般管理費

- ✓ **121億円、売上高販管費率 前同比0.4ポイント上昇**
経済活動の正常化に伴う事業活動費用の増加が影響。

営業利益

- ✓ **30億円、前同比6.1%増加**
販管費、研究開発費の増加はあったものの、売上、売上総利益の増加により増益。

【参考】 2024年3月期 通期連結業績予想修正（9月25日公表）

当期純利益

- ✓ **62億円、前回（5月11日）公表値より18億円増加**
投資有価証券売却益（特別利益）の計上により上方修正。
※売上高、営業利益、経常利益の修正はありません。

損益計算書（連結）

単位：百万円	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減額	増減率
売上高	30,172	31,648	1,475	4.9%
営業利益	2,879	3,055	176	6.1%
経常利益	2,987	3,096	108	3.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,346	4,129	1,783	76.0%

増加要因

- ✓ 原材料価格やエネルギー価格の高止まりや円安を背景とした物価上昇など、経済動向は依然として不透明な情勢のまま推移しておりますが、このような状況下においても、当社グループの事業は前年度に引き続き、堅調に推移しております。投資有価証券売却益（特別利益）の計上により、親会社株主に帰属する当期純利益は増加しました。

事業別売上高（連結）

単位：百万円	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品事業	26,851	28,404	89.7%	1,553	5.8%
アニマルヘルス事業	3,234	3,162	10.0%	△71	△2.2%
その他事業	86	80	0.3%	△5	△6.6%
合計	30,172	31,648	100.0%	1,475	4.9%

増減要因

- ✓ 医療用医薬品事業は、毎年の薬価改定の影響を受けつつも全般的に堅調に推移しました。「レルミナ」が順調に伸長したほか、2022年6月から販売を開始した「ドロエチ」が前年に続き大きく増加し、「チラーチン」「リフキシマ」も着実に伸長しました。
- ✓ アニマルヘルス事業は、原材料等のコスト上昇による影響を受けたものの、畜産用薬品や飼料添加物を中心に売上高は前年並みを維持しました。

主要製品売上高（医療用医薬品事業）

単位：百万円

領域	区分	製品	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期		2024年3月期		ご参考 期初計画	特記事項
			実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)		
内科	AG	高血圧治療剤 カンデサルタン類 ※1	5,477	4,952	△9.6%	9,438	△12.0%	9,268	薬価はダウンしたが数量ベースを維持
	先発品	甲状腺ホルモン製剤 チラーヂン	3,921	4,000	2.0%	7,823	1.2%	7,833	想定通りの進捗
	先発品	難吸収性リファマイシン系抗菌薬 リフキシマ	2,757	2,997	8.7%	5,671	5.1%	5,578	ガイドライン浸透とともに堅調に推移
	先発品	抗甲状腺剤 メルカゾール	761	776	1.9%	1,515	1.9%	1,513	想定通りの進捗
	GE	高血圧治療剤 アムロジピン	465	430	△7.4%	844	△6.2%	844	想定通りの進捗
産婦人科	先発品	子宮筋腫・子宮内膜症治療剤 レルミナ	4,524	5,186	14.6%	10,234	15.8%	10,128	子宮内膜症での浸透活動を継続
	GE	月経困難症治療剤 ドロエチ	1,279	2,909	127.4%	5,370	46.3%	4,165	想定以上の大幅な進捗
	AG	月経困難症治療剤 フリウエル	1,765	1,663	△5.8%	3,329	△4.6%	3,407	数量増だが当初想定よりは下回る
	先発品	黄体ホルモン製剤 ルテウム	569	876	53.8%	1,462	16.9%	1,363	出荷制限解除、外部要因等により伸長
	先発品	経口避妊剤 アンジュ	420	367	△12.6%	713	△9.0%	799	他社品への流出による減少
	先発品	切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 マグセント ※2	309	355	14.9%	711	13.4%	750	薬価上昇分が数値に反映
泌尿器科	GE	LH-RH誘導体マイクロカプセル徐放性剤 リュープロレリン ※3	2,619	2,321	△11.4%	4,494	△10.1%	4,828	期初想定より他剤への切り替えが継続

※1 配合剤を含む

※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤との合算値

※2 硫酸マグネシウム製剤の合算値

主要事業分野別売上高（アニマルヘルス事業）

単位：百万円

事業分野	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期		2024年3月期計画		ご参考
	実績	実績	増減率(%)	見込	増減率(%)	期初計画
飼料添加物 混合飼料 飼料原料	2,062	1,873	△9.1	3,484	△16.1%	3,832
動物用医薬品 (畜水産+CA [※])	1,081	1,189	10.0	2,415	1.9%	2,490

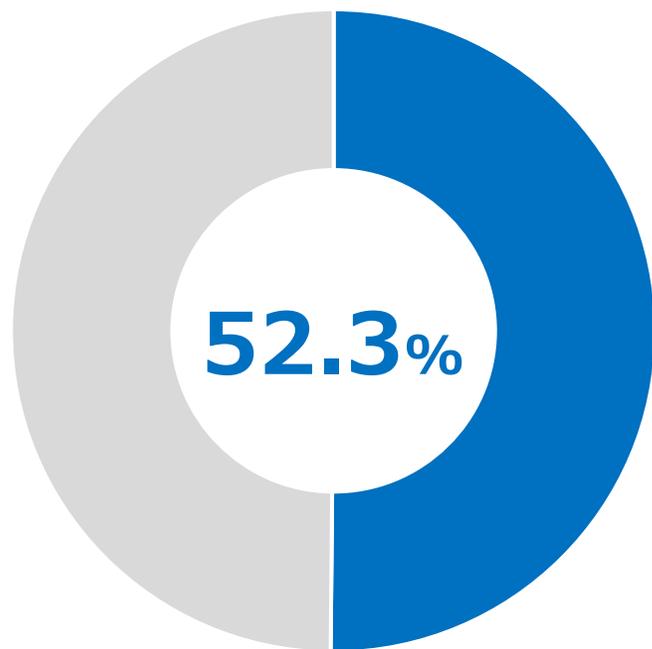
増減要因

- ✓ 飼料添加物の市況は下げ止まりの傾向がみられるものの、依然として不透明な状況が継続しています。
- ✓ 動物用医薬品は昨年発売したトリロスタン錠「あすか」およびホルモン剤を中心に堅調に推移しました。

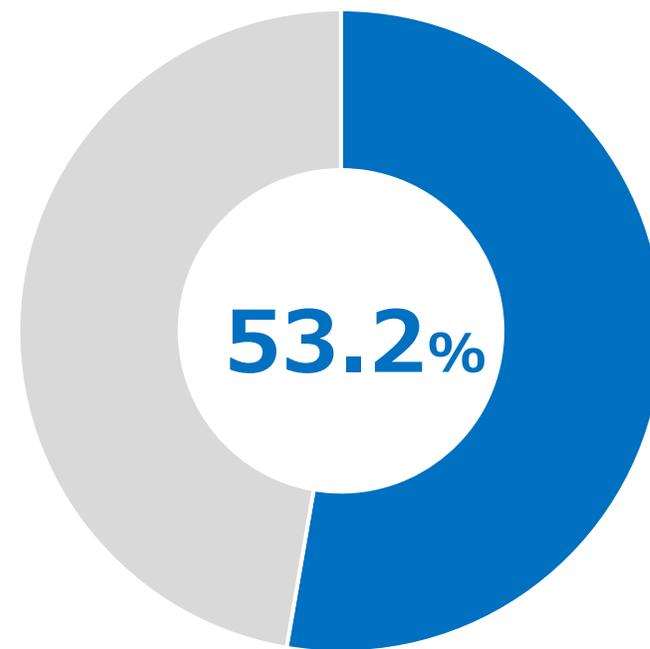
先発品・GE品売上高比率

■ 先発品 ■ GE品

2023年3月期 第2四半期



2024年3月期 第2四半期

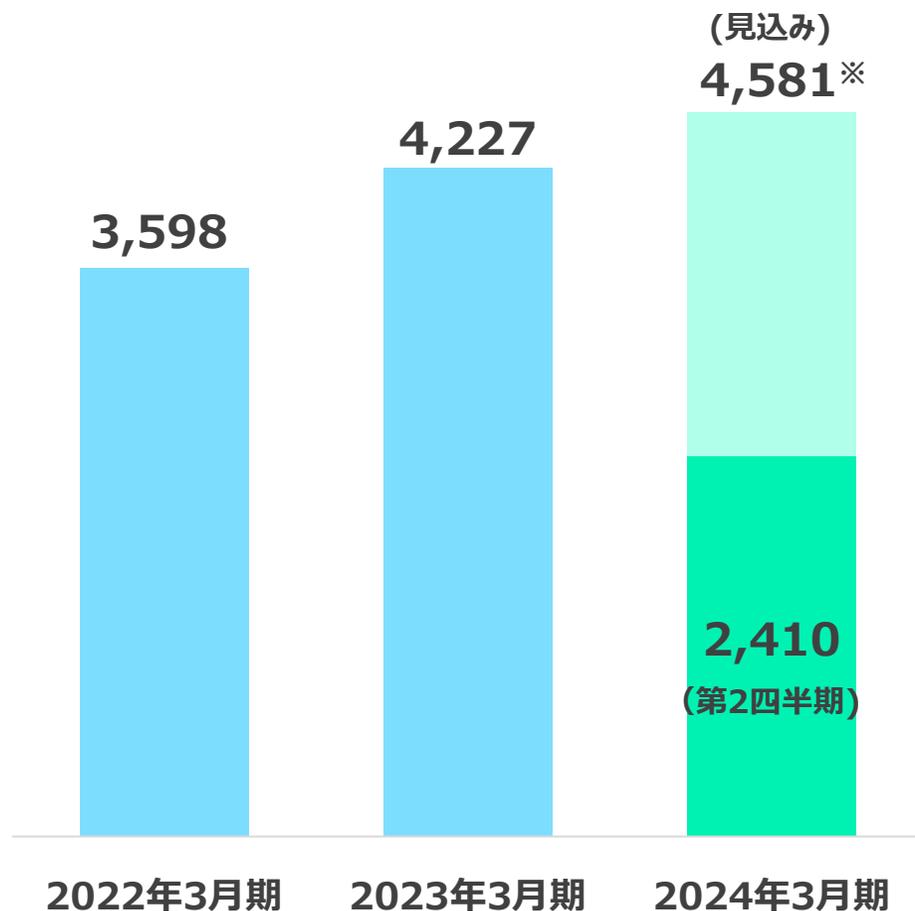


後発医薬品であるドロエチ配合錠の大幅な伸長があったものの、レルミナ、リフキシマ、チラーチン等の先発品群の伸長により先発品比率は0.9ポイント上昇しました。

研究開発の状況

研究開発費推移

(百万円)



※期初公表 (4,309) より修正

2023年11月6日時点

開発番号(一般名)/領域・効能	状況
LF111 (ドロスピレノン) 避妊	Ph III
(オプション契約) PMS/PMDD治療薬 レナサイエンスにて開発中	Ph II (医師主導)
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮筋腫	Ph I / II
TRM-270 (癒着防止材) 消化器領域・産婦人科領域	Ph III
L-105 (リファキシミン) 肝性脳症 (小児)	申請済み
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 前立腺肥大症	Ph II
AKP-017 (テストステロン経鼻剤) 泌尿器科領域	開発準備中

・AKP-009 : 再度Phase I 試験を実施中

【参考】 2024年3月期 通期連結業績予想修正（9月25日公表）

単位：百万円	2023年3月期 実績	2024年3月期 期初予想	2024年3月期 予想（修正）	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	60,461	62,000	62,000	1,538	2.5%
営業利益	5,108	5,400	5,400	291	5.7%
経常利益	5,232	5,500	5,500	267	5.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,238	4,400	6,200	1,961	46.3%

修正要因

当社は政策保有株式を連結純資産比率で20%未満とすることを目標に縮減を進めており、その一環として、あすか製薬株式会社が保有する上場有価証券の売却を行う予定です。

現時点の概算で約2,700百万円の投資有価証券売却益を特別利益として計上する見込みであるため、親会社株主に帰属する当期純利益を上方修正いたします。